

提供日 2023/1/13
タイトル 公開講座「静岡で知っておきたい地震と火山と防災」を開催します
担 当 静岡県公立大学法人 静岡県立大学
グローバル地域センター
発信担当者 054-245-5600



静岡県立大学記者提供資料

2022年度 第5期講座「静岡で知っておきたい地震と火山と防災」を オンラインで開催します

静岡県立大学グローバル地域センターは、標記オンライン講座を開催します。
報道機関の皆様におかれましては、募集告知及び当日の取材に御協力をお願いします。

1 趣 旨

自然災害をテーマに、津波やハザードマップ、風水害について学ぶ講義に加え、「3.11 メモリアルネットワーク」の語り部による東日本大震災の経験の講話を設定します。専門家の情報と経験者の話から日頃の備えの大切さを学び、地域住民の積極的な防災行動につなげていくことが目的です。

2 日 時

令和5年1月20日(金)・1月27日(金)・2月3日(金) いずれも 19:30～21:00 ※全3回の講座です

3 開催方法・参加者

オンライン配信(Zoom ウェビナー) / 各回定員 200名

※要・事前申込 申込方法はグローバル地域センターのホームページからご覧いただけます。

4 プログラム

(敬称略)

第1回 1/20(金)	【講話】「わかっていたのに、あの時できなかったこと」 3.11 メモリアルネットワーク 語り部・草島真人(くさじま まさと) 【講義】「家族や地域を守るために役立つ GIS とハザードマップ」 中部大学 中部高等学術研究所 国際 GIS センター教授 井筒 潤(いづつ じゅん)
第2回 1/27(金)	【講話】「間違いだらけだった私と祖母の津波予測」 3.11 メモリアルネットワーク 語り部・阿部 任(あべ じん) 【講義】「津波予測研究の最前線と知っておきたい津波防災」 静岡県立大学グローバル地域センター 特任准教授 鴨川 仁(かものがわ まさし)
第3回 2/3(金)	【講話】「身近な防災、今日からできること」 3.11 メモリアルネットワーク 語り部・浅野仁美(あさの ひとみ) 【講義】「災害からいのちを守るための情報～『キキクル(危険度分布)』～」 静岡地方气象台 防災気象官 河合 俊明(かわい としあき)

※各回とも講義終了後に質疑応答の時間を設定しております。

《コーディネーター》 静岡県立大学グローバル地域センター 特任准教授 楠城一嘉(なんじょう かずよし)

【本件に関するお問い合わせ先】

〒420-0839 静岡市葵区鷹匠3-6-1 もくせい会館2階

静岡県立大学グローバル地域センター

電話 054-245-5600、FAX 054-245-5603

メールアドレス glc(ここに@を入れる)u-shizuoka-ken.ac.jp



2022年度

第5期講座

全3回

静岡で知っておきたい

地震と火山と防災



東日本大震災の語り部から学び、

自然災害の最新事情を

知る防災講座です。



要事前申込

参加無料

(各回先着)

200人



開催方法

オンライン配信(Zoomウェビナー)

※一家族・1アカウントでもご参加いただけます。
※視聴される際はWi-Fi環境が無制限になっているかを必ず事前にご確認ください。
※本講座の録音、録画、撮影はご遠慮ください。

開催日時

2023年1月20日(金)・1月27日(金)・2月3日(金)
19:30~21:00



第1回 1/20(金)

(敬称略)

「わかっていなのに、あの時できなかったこと」

●3.11メモリアルネットワーク 語り部 草島 真人

「家族や地域を守るために役立つGISとハザードマップ」

●中部大学 中部高等学術研究所 国際GISセンター教授 井筒 潤



申込はこちら

申込期限:1/19(木)

第2回 1/27(金)

(敬称略)

「間違いだらけだった私と祖母の津波予測」

●3.11メモリアルネットワーク 語り部 阿部 任

「津波予測研究の最前線と知っておきたい津波防災」

●静岡県立大学グローバル地域センター特任准教授 鴨川 仁



申込はこちら

申込期限:1/26(木)

第3回 2/3(金)

(敬称略)

「身近な防災、今日からできること」

●3.11メモリアルネットワーク 語り部 浅野 仁美

「災害からいのちを守るための情報 ~『キキクル(危険度分布)』~」

●静岡地方気象台 防災気象官 河合 俊明



申込はこちら

申込期限:2/2(木)

コーディネーター

●静岡県立大学グローバル地域センター特任准教授 楠城 一嘉

申込方法

グローバル地域センターのウェブサイトまたは、各講座の二次元コードからウェビナー登録をしてください。登録完了後に接続方法をご案内します。

グローバル地域センター

検索

<https://www.global-center.jp>

主催・お問い合わせ:

静岡県立大学グローバル地域センター

共催:

中部大学 中部高等学術研究所 国際GISセンター

TEL:054-245-5600 FAX:054-245-5603

<https://www.global-center.jp>

E-mail: glc@u-shizuoka-ken.ac.jp

5期目を迎えた本講座は自然災害をテーマに取り上げます。津波やハザードマップ、風水害の「これだけは知って使ってほしい」情報を学ぶ講義に加え、東日本大震災を経験した語り部による「震災の経験と教訓が未来の命を守る力になる」講話があります。あなたや家族に今後必ず起こる自然災害。起きてから「もっと準備できたのに」と思うのでは遅いと皆さん気づいているはずですよ。専門家や経験者だからこそ伝えられる日頃の備えの大切さを学び、防災行動へつなげるきっかけになればと思います。

講師プロフィール（敬称略）

第1回

井筒 潤 (Jun Izutsu)



中部大学 中部高等学術研究所 国際GISセンター・同大学工学部創造理工学実験教育科 教授

静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門客員教授も務める。専門は地震学。気象予報士の資格も持ち、地震と津波、台風や集中豪雨・豪雪などの広域複合災害に対して地理情報システム(GIS)を用いて研究中。

語り部

草島 真人 (Masato Kusajima)



家庭教師、東日本大震災津波伝承館解説員。震災前から地域の避難訓練には参加しハザードマップも確認していたが、2度も海に近い自宅に戻り、津波を見るまでは避難行動はとらなかった。ギリギリで津波にのみならず避難したが、自宅も含め住んでいた地区全体は流出。現在は、造成し新しく生まれた街に2017年に自宅を再建した。震災前は殆ど関わらなかった地域活動に携わりながら、災害時に誰も命を落とさない地域にしたいと奔走中。

第2回

鴨川 仁 (Masashi Kamogawa)



静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門・特任准教授

NPO法人富士山測候所を活用する会専務理事・事務局長、NPO法人宇宙工学コンソーシアム理事なども務める。NHKのプラタモリにも専門家として出演し、巧みな解説が評判を呼んだ。主な著書に「雷の疑問56(共著)」（成山堂書店）がある。

語り部

阿部 任 (Jin Abe)



震災時は高校一年生。石巻市門脇町の実家で祖母と2人の時だった。裏山に避難せず2階にいたところ、家ごと津波に流され9日後に救出された。判断を誤り、多くの人に迷惑をかけてしまった後悔と、メディアでは奇跡の救出として報じられたことによる世間とのギャップに悩んだ経験を語る。

第3回

河合 俊明 (Toshiaki Kawai)



気象庁マスコットキャラクター「はれるん」

静岡地方気象台 防災気象官

1990年4月新潟地方気象台採用、その後、水戸地方気象台、東京管区気象台、名古屋地方気象台等に勤務し、2022年4月から現職。現在、防災気象情報の利用についての普及と関係機関との連絡調整に従事。

語り部

浅野 仁美 (Hitomi Asano)



主婦、元避難所リーダー。東日本大震災にて石巻市内にあった自宅は2~3mの津波に襲われ全壊。津波襲来時は、当時小学校5年生の長女と屋根の上に逃げ、肩一髪で難を逃れた。その後、娘さんが通う小学校が避難所となり1,700人の避難者の1人として約6ヶ月生活を。はからずも避難所のリーダーとして、避難者、学校、地域を考えながら避難所運営にあたった。現在、石巻市より内陸部の自治体に移り自宅を再建。避難所で出会った人々との縁で各地にて震災の体験を伝えている。

コーディネーター

楠城 一嘉 (Kazuyoshi Nanjo)



静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門・特任准教授

3.11メモリアルネットワークの語り部の講話を被災地石巻で聞き、南海トラフ地震など自然災害に対する日頃の備えの大切さを再確認するのに語り部の真実の声は役立つと気づきを得て本講座を企画した。主な著書に「地震と火山と防災のはなし(編著)」（成山堂書店）がある。

公益社団法人

3.11メモリアルネットワークについて



公益社団法人
3.11メモリアルネットワーク
命をつなく未来を拓く

2011年5月に宮城県石巻市で活動がスタート。フェーズの変化に伴い「震災支援の連携から、震災伝承の連携へ」活動をシフトさせながら、東日本大震災の経験と教訓を未来の世代へ伝え、甚大な被害を受けた岩手・宮城・福島(3県(広域))と地域(現場)の両方の視点を大切にしながら災害で命が失われない社会を目指す。